

菊地 謙太 議員

(一問一答方式)



- ①ガバメントクラウドへの移行に関する進捗と市民への影響について
- ②施設の建設費及びランニングコストが財政に与える影響と今後の方針について
- ③生成AIを活用した職員の業務改善について

ガバメントクラウド移行による市民の恩恵について

問 自治体の基幹業務システムを国が整備したクラウド上の標準準拠システムへ移行する、いわゆるガバメントクラウド移行によって、市民が得られる恩恵について伺いたい。

答 まず、自治体ごとの住民情報を取り扱うシステムが全国共通の標準仕様となることで、どこにいても役所に出向くことなく、オンラインで主要な行政手続きができる環境が整うことにより、利便性の向上と手続きの簡素化を図ることができます。

次に、国が新たな給付金等の支給制度を決定した際には、標準化されたシステムを運用することで施策を迅速に反映できるようになり、支給までの期間の短縮につながるなどが期待されます。また、高水準で厳正なセキュリティ対策が施されたクラウド基盤を利用することで、より安全な環境で住民情報を管理・運用することが可能となります。

ガバメントクラウドへの移行は、高い安全性を確保したうえで、行政サービスの在り方を変える重要な取組です。現在その基盤が整った段階であるため、今すぐ目に見える効果が現れるものではありませんが、将来的に様々な場面で住民の皆様が恩恵を感じることができるものと考えています。

市民文化会館の建設費が財政に与える影響について

問 多額の建設費が必要である市民文化会館の建設に関して、財政調整基金の取り崩しを行わずに実施すると説明されているが、その根拠について伺いたい。

答 市民文化会館の建設にあたっては、国庫補助金

や過疎対策事業債などの市債を活用するほか、自主財源として公共施設等整備基金や一般財源を充当する計画としています。

財政運営にあたっては、公共施設の整備などの普通建設事業費に充てる予算をできる限り平準化することで、基本的な行政サービスの提供に影響を与えないようにしています。令和8年度からの建設工事期間においては、他の公共施設整備の実施時期を調整して特定の会計年度に負担がかかることを避け、令和8年度の当初予算は普通建設事業費を前年度比で約20億円、前々年度比で約26億円の減額編成としています。これにより、補正予算で文化会館の建設費が加わったとしても、予算額を例年並みに抑えることができ、普通建設事業費に充てる財源を確保できると考えています。

令和7年度以降の予算が0円となった理由について

問 DX推進計画アクションプランで、令和7年度以降の生成AI関連予算が0円に修正された理由と、今後の利用方針について伺いたい。

答 本市では、生成AIの行政利用における注目度の高まりを受け、勉強会の開催など生成AIに対する理解を深める取組を進め、令和6年度当初予算に有料サービスの導入費用を計上していましたが、生成AIは短期間のうちに飛躍的に進歩し、行政機関を対象としたサービスも次々と登場する状況であったため、本市に適したサービスについて改めて研究する必要があるとの判断から、導入を見送ることとしました。

また、職員が生成AIを使用してどのように業務改善に活用できるか体験できるよう、一定のルールのもとで無償版の生成AIサービスを利用することを認めていますが、現時点では有償版のサービスを導入しても稼働率の面で懸念があったため、令和7年度も予算化を見送っています。

今後は、令和8年度に外部に学習されない環境で利用できる有償版の生成AIサービスを試験的に1ライセンス導入し、活用方法を研究するとともに、生成AIの活用をはじめ、表計算ソフトでの関数活用など、業務改善を目的とした職員研修を実施し、DX人材の育成も進めていきます。